

小麦新品種「セトコムギ」について

野中舜二・田谷省三・荒木 均
(九州農業試験場)

NONAKA, S., TAYA, S. and ARAKI, H.
A New Wheat Cultivar "SETOKOMUGI"

登録番号

小麦農林 120 号 (系統名: 西海 134 号)

来歴

昭和37年4月、九州農業試験場において、西海 113 号を母とし、農林26号を父として人工交配を行い、昭和41年度に雑種第5代で派生系統として、以後、選抜固定を図って来た。昭和45年度 (F₅) に「西海 134 号」の系統名を付して関係各県の奨励品種決定調査の供試材料として配布し、地域適応性を検討して来た。昭和51年度における世代は雑種第15代である。

形態的特性

叢性はやや直立型で、農林61号、同26号に比べて10cm前後短程で、稈の太さは中位である。穂数は多く、株の開きは中位である。穂型は紡錘型で、有芒、褐稃であり、穂長はやや短い、やや密穂で、小穂着生段数は農林61号と同程度である。粒は硝子率20%前後の粉状質で、1ℓ重、9粒重ともやや小さいが、充実良く、整粒歩合は

同程度である。整分歩留、ミリングスコアがやや低い、粉色が良い。

生態的特性

播性程度 I~II の春播型で、出穂期、成熟期ともに農林16号より4日程度早い早生品種である。短程であるために耐倒伏性が強く、機械化栽培に適する。収量は、栽培法・年次間を通じて安定多収を示し、特に多肥密播栽培に適すると言える。耐病性については、縮萎縮病、うどんこ病に強く、赤かび病、黒銹病には農林 61 号と同程度であり、赤銹病にはやや弱い。穂発芽性は難である。

適地及び奨励品種採用県

瀬戸内沿岸地方に広く適する。昭和51年度内に、香川県で奨励品種に、大分県で認定品種に、それぞれ採用予定で、当面、約 2,000ha の普及が見込まれている。早生、短強程、多収(両県)、良質(大分県)が主な採用理由である。

第 1 表 セトコムギの主要特性

形 質		セトコムギ	農林 61 号	試験実施農試名	
生育特性	出穂期 (月・日)	4・14	4・18	九州 (昭43~50)	
	成熟期 (月・日)	5・31	6・4		
	稈長 (cm)	78	85		
	穂長 (cm)	8.6	9.6		
	穂数 (本/m ²)	334	311		
子実特性	収量 (kg/a)	標準栽培	35.6 (116)		30.7 (100)
		多肥栽培	40.0 (136)		29.5 (100)
		ドリル播	38.8 (144)		27.0 (100)
特性	ℓ重 (g)	731	743		
	千粒重 (g)	30.2	32.5		
耐病性等	縮萎縮病	強	やや弱	九州	
	赤銹病	中	やや強	九州, 静岡	
	うどんこ病	やや強	中	九州, 長崎	
	赤かび病	やや強	やや強	九州, 東海近畿, 鹿児島	
	穂発芽性	難	難	九州	
耐倒伏性	強	中			

第2表 採用予定県における成績

形 質		大 分 県 農 試		香 川 県 農 試	
		セトコムギ	農林61号	セトコムギ	農林26号
生育特性	出穂期 (月・日)	4・17	4・21	4・20	4・22
	成熟期 (月・日)	6・2	6・6	6・3	6・5
	穂長 (cm)	79	91	84	95
	穂長 (cm)	7.6	8.4	8.1	8.2
	穂数 (本/m ²)	625	603	571	590
子実特性	収量 (kg/a)	34.7 (95)	36.6 (100)	51.1 (117)	43.6 (100)
	標準栽培 全面全層播	50.0 (98)	51.1 (100)	64.4 (116)	55.4 (100)
	1000粒重 (g)	749	765	764	779
	千粒重 (g)	31.4	34.5	33.1	35.4
	品質	中	中	上下	上下

栽培上の注意

やせ地あるいは小肥栽培では収量があがらず、また短
程化しすぎて機械刈取りが不可能となる場合があるので、
やせ地への導入を避け、ある程度肥沃な条件下で栽培す

ること、早播や密播によって穂数確保に努めることが望
ましい。

命名の由来

瀬戸内沿岸地方に広く適する意。